

MEDIA PRACTICE 21-22



東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻年次成果発表会 修士課程修了制作展／修士一年次成果発表
2022年2月11日(金祝)ー13日(日) 11時ー19時 ※最終入場は18時30分まで
「事前予約制」会場 元町中華街校舎(横浜市中区山下町116) 主催 東京藝術大学大学院映像研究科
横浜芸術文化観光局



開催趣旨

メディア映像専攻の学生による「MEDIA PRACTICE 21-22」を開催いたします。修士二年生はこれから各自のフィールドで活動していく始まりの「修了制作展」として、修士一年生は自らのテーマや問題意識のもとで取り組み始めた作品の「成果発表会」として、両学年が年次成果を併せて発表する展覧会です。

本展は、私たち学生が展覧会自体を企画し、各自が探究する新たな表現をどのように見せるかをセルフ・プロデュースする実践であり、表現とは何かを思考し、制作や発表を通して経験や気づきを重ねていった成果でもあります。今年度の MEDIA PRACTICE は、「リフレクション reflection」をテーマにして、同時代を現すこと、世界を省みることの意味を取り戻し、表現することで世界を知るという喜びを捉え直したいと考えています。

では、私たちはいま世界をどう見ているのでしょうか。資本の流入で肥大化した情報技術はますます加速しつづけています。めまぐるしい流れの中では、自己を省みることが小さな投擲のようですが、この大学院に集った私たちが相互に積み重ねてきたものは、創作活動を通して内省 (reflection) を深めていくことでした。それは同時に、自己や世界の在り方に想像力を働かす練習でもありました。ときに遠隔で過ごす期間を挟みながらも培われてきたリアリティが MEDIA PRACTICE に結実しています。

出展作品は、映像、インスタレーション、パフォーマンス、ワークショップ、VR、ゲームなど多岐にわたり、いずれもメディアの同時代性を批判的に捉えようとしています。実践と内省のなかで獲得した私たちの成果から、未知の発見があればこれに勝る喜びはありません。

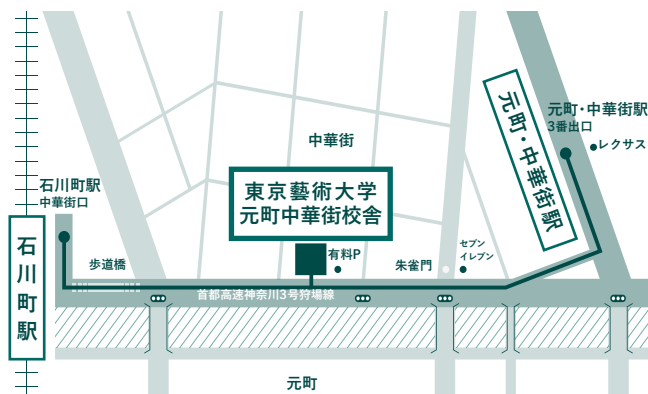
メディア映像専攻 15 期生・16 期生 一同

開催概要

会期	2022 年 2 月 11 日（金・祝）－ 13 日（日）
時間	11:00-19:00 ※最終入場は 18:30 まで
会場	東京藝術大学 横浜校地 元町中華街校舎
入場	無料〔事前予約制〕 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来場の皆様には、来場にあたり日時指定の事前予約をお願いさせていただきます。感染対策を強化した上での開催にご協力していただきたく、あらかじめ WEB サイト等に記載されている「ご来場のお客様へのお願い」をお読みになりお越しく下さい。
出展者	《修士課程修了制作展》15 期生 内海 拓 / ジョイス・ラム / 孫 奎星 / 田中 彩 / 松井靖果 / 山岸耕輔 / 浅尾鷹哉 / 姜 賢植 《修士一年次成果発表》16 期生 今宮有葉 / うしお 鶏 / 桑原幹治 / 佐藤瞭太郎 / 下川晴葵 / 砂川天望 / 田中くるみ / 永田風薫 / 布谷麻衣
予約	https://mediapractice2022.peatix.com ※予約サイトからのみ予約可能です。電話や直接訪問ではお受けできません。 ※ご来場当日は、peatix での予約画面、もしくは予約画面を印刷したものを入口の係員にご提示ください。ご提示がない場合は入場できません。
主催	東京藝術大学大学院映像研究科、横浜市文化観光局 「MEDIA PRACTICE 21-22」は東京藝術大学大学院映像研究科と横浜市文化観光局が連携して開催する地域貢献事業です。
Web	https://fm.geidai.ac.jp/media-practice/2022/
SNS	Facebook : fb.com/Tokyo.Geidai.New.Media Twitter : @Geidai_newmedia Instagram : @geidainewmedia
アクセス	東京藝術大学 横浜校地 元町中華街校舎 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 116 JR 浜東北・根岸線「石川町」駅 中華街口（北口）より徒歩 6 分 みなとみらい線「元町・中華街」駅 3 番出口より徒歩 6 分



ご予約はこちらから



作品介绍（MEDIA PRACTICE 21-22 で発表する作品の一部になります）



1.
内海拓《ベッドタウンの神様 in 低俗の森》
映像、ワークショップ、自作玩具



2.
ジョイス・ラム《家族に関する考察のトリロジー》
レクチャーパフォーマンス、映像



3.
孫 奎星《しん・稽古》
パフォーマンス



4.
田中 彩《謂う口》
映像（シングルチャンネル）



5.
松井靖果《Purification》
映像インスタレーション

プレスキット（広報用素材）

広報用画像は以下のリンクよりダウンロードしていただけます。

<https://bit.ly/3FstdMu>

ダウンロードサイズ目安： バナー2種：1.8MB、プレスリリース：1.7MB、作品画像：35.3MB

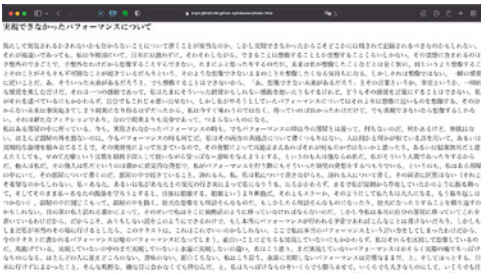
作品介绍 (MEDIA PRACTICE 21-22 で発表する作品の一部になります)



6.
山岸耕輔 《移動する墓》
映像インスタレーション



7.
浅尾鷹哉 《Surviving body》
映像 (シングルチャンネル)



8.
姜 賢植 《部屋の中》
テキスト、パフォーマンス



9.
佐藤瞭太郎 《手腕振動》
映像 (シングルチャンネル)



10.
うしお 鶏 《かえり道》
漫画、インタラクション

プレスキット (広報用素材)

広報用画像は以下のリンクよりダウンロードしていただけます。

<https://bit.ly/3FstdMu>

ダウンロードサイズ目安： パナー2種：1.8MB、プレスリリース：1.7MB、作品画像：35.3MB

MEDIA PRACTICE 21-22 に寄せて

「アートは内面の表現だ」と、美術教師は言う。他人の作品を見れば、なるほどそれは内面の表現のように見える。しかしいったん自分でやり出してみるなら、ことはそれほど単純ではないと、誰でも気が付く。

「わかった!」と、誰もが言う。でもその人がどれだけ分かっているのかは誰にも分からない。何かをしゃべらせてみて、どの程度分かっているのかが、やっと推測できる。しかしその「程度」にしても、自分が基準になっているだけなのだから、じっさいは誰も、何も分かっていないのかもしれない。もしそのようなものが「内面」だと言うのなら、「内面」とはなんと独断的で、なんと頼りないものか。

独断的で頼りない内面を表現してアートにできるのは、天才だけかもしれない。まあでも観照(テオリア)の人々にとっては、別にそれでもかまわないだろう。かれらは、ほんの少数の天才(神?)がいれば満足だ。「ひたすら見ることでそれ自体のために見ることを」を標榜するかれらは、他の多くを望まず、ただじっと、秀でたものだけを見つめている。

いっぽう私たち、実践(プラクシス)の人々は、じっとしていない。私たちの基本は動くこと、そして成すこと、つまり行為(プラクシス)にある。視線を交わし、手を動かし、議論し、共に制作してみる。お互いの心に、何か織物の風合いのようなものが、次第に生まれてくる。

じっと見ることから学ぶのではなく、自ら動きつつその動きから学んでみせようというのだから、実践は容易ではない。だから私たちにはメディアが必要だった。メディアとはメディウムの複数形。映像、ことば、意味ある物体や自分の身体、そして記号など、私たちと外界や他者を繋ぐ「媒体=メディウム」の総称だ。まずはそれをこの手にしっかりと握り、その手触りを確かめること。そこから私たちの実践=プラクティスは始まった。

私たちの「メディア・プラクティス」の全体が、いまここに作品として凝固する瞬間を迎えようとしている。「実践」のそこかしこに胚胎されていた活動的な創意が、まとめて可視化されつつある。私たちは、あの「内面」ではなくこの「創意」を、アートと呼んでいる。

2021 年 12 月

東京藝術大学大学院映像研究科

メディア映像専攻 教授

畠山直哉

来場に際してのご案内

新型コロナウイルス感染症拡大への対策を徹底するために、ご来場のお客様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

| ご来場のお客様へのお願い |

- ・発熱、咳などの風邪の症状がみられる方、体調に不安がある方、新型コロナウイルス感染者との濃厚接触者、新型コロナウイルス感染症の流行国からの渡航後に保健所や検閲所から健康観察を指示されている方のご来場はできません。
- ・来場時に検温を実施しており、37.5 度以上の発熱が確認された場合、ご来場をご遠慮いただきます。
- ・保健所などの公的機関による聞き取り調査にご協力いただく場合があるため、必要に応じて、事前予約時の連絡先のご提供をお願いいたします。
- ・会場内ではマスクの着用が必要です。
- ・手洗いおよびアルコール消毒にご協力ください。
- ・他のお客様と十分な間隔を保ってご観覧いただきますようお願いいたします。
- ・飛沫予防のため、会場内では会話を極力お控えください。
- ・展示作品、機械、備品にお手を触れないようお願いいたします。一部、触って鑑賞していただく作品がございます。お手に取る前と後の手指消毒にご協力ください。

| 開催にあたっての感染対策の取り組み |

- ・日時指定予約制の導入
- ・来場者全員の検温
- ・混雑時の入場者の制限
- ・会場内の清掃、換気、消毒の実施
- ・会場内フロアごとにアルコール消毒液の設置
- ・スタッフ全員の検温および健康状態の確認
- ・スタッフのマスクの着用
- ・東京藝術大学および横浜市の指針などに基づき、十分な感染症対策を講じています。